

Our Resources

今後も経済的価値と社会的価値を拡大し続けるための経営資源

半導体関連事業でのコアバリューを磨き、各時代の顧客課題や社会的課題に応え続けることで、強靱な財務資本と、独自の非財務資本を構築してきました。

 <h3>財務資本</h3> 	 <h3>製造資本</h3> 	 <h3>知的資本</h3> 	 <h3>人的資本</h3> 	 <h3>社会・関係資本</h3> 	 <h3>自然資本</h3> 
<ul style="list-style-type: none"> ● 超長期を見据えた財務資本政策 ● 純資産を基準とした配当政策 <p>■ バランスシートマネジメント [投資][キャッシュリザーブ][株主還元]のベストバランスを追求</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先端分野におけるニッチトップ戦略の遂行 ● 研究開発型企業として積極的にリスクテイク <p>■ 戦略的なキャッシュリザーブ方針 [運転資金][投資準備資金][リスク対応資金]からなるキャッシュリザーブ方針を設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「超長期を見据えた技術開発」「超長期にわたるチャレンジの継続」「大規模災害等の不測時対応」・財務健全性(自己資本比率75.3%、D/Eレシオ0.07倍*)は化学セクタートップクラス *いずれも2020年12月末 <p>■ 配当の充実 DOE(純資産配当率)3.5%を目処とする配当政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安定的かつ継続的な株主還元を実施 <p>■ 資産効率の追求 目標ROE: 7%(2021年12月期*) 10%以上(2030年12月期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ROIC、IRR等をモニタリング指標とした投資・事業戦略を推進 <p>*2021年12月期の目標は2021年2月15日に公表した数値をもとに設定しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界最高水準の微細加工技術 ● 世界最高水準の高純度化技術 <p>■ 微細加工技術 [半導体回路線幅を微細にするための材料][半導体パッケージを高密度化するための材料]の開発・製造</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [半導体デバイスを3次元に積み上げるための材料]の開発・製造 ● お客様である半導体メーカーや電子部品メーカーの先端ニーズに応え続ける <p>■ 高純度化技術 製品中の不純物を極限まで低減した世界最高水準の純度を誇る洗浄液、シンナー、現像液を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最先端デバイスの量産化において、顧客製造ラインの「歩留り向上」という共有価値を実現 ● 「分子サイズでの性能制御」など、難易度が高い領域にも強みを発揮 <p>■ ニッチトップ製品 創業者・向井繁正のDNA「他社が容易に真似できない、高い技術力に支えられたものづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ニッチで、技術転換が激しく、転換スピードの速い事業領域に注力 ● ハイエンドかつ高付加価値な新製品を開発・上市し続けるビジネスモデルを展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高水準の研究開発投資の継続 ● ロングランの開発を支える風土 <p>■ 高い売上高研究開発費比率 売上高研究開発費比率8%程度を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国内のほか、米国・韓国・台湾で研究開発機能を拡充 ● 機能性高分子材料の研究とその応用技術の開発を中心に、微細加工技術と高純度化技術のさらなる進化に向けた開発を継続 ● 新たな機能性材料や装置、生産技術の開発にも注力。オープンイノベーションも拡大・加速 <p>■ 研究開発におけるマーケティングカブルーオーシャン戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 将来のブルーオーシャンを見据えて開発分野を設定し、技術マーケティングのさらなる精緻化を進めた結果、研究開発効率*は直近5年間で30ポイント超上昇 <p>* 研究開発効率=直近5年間の営業利益/その前の5年間の研究開発費</p> <p>■ ロングランの開発 経営理念「自由闊達」に根ざすチャレンジ精神</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先端分野における開発難易度が年々高まる中、開発期間が10年超でもチャレンジを粘り強く継続・支援できる自由闊達な組織風土 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幸福度を重視した人材施策 ● ダイバーシティ&インクルージョン <p>■ 人財活用方針「事業の原点は常に人であることを忘れてはならない」 人的資本への投資を拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1人あたり平均年間給与は直近10年で159万円上昇^{*1}、平均勤続年数は3.4年上昇^{*1} ● 有給休暇取得率は国内平均(56.3%)^{*2}を大きく上回る72.0% <p>*1 単体ベース *2 出典:厚生労働省「令和2年就業条件総合調査の概況」2019年または2018会計年度状況</p> <p>■ 人材の幸福度の追求 人材一人ひとりの価値観と「幸福度」に寄り添った施策を追求</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新人事制度の導入(2022年予定) ● エグゼクティブフェロー制度の新設(2019年実施) ● 役員報酬制度の改定(2020年実施) <p>■ 外国籍従業員と女性人材の活躍が進展 国籍や性別に関係の無い実力本位の採用・登用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 連結外国籍従業員比率が上昇し、営業・開発・製造の各部門において企業理念を深く理解した現地人材が最先端の価値創造に大きく寄与 ● 女性従業員数および比率が増加したほか、2020年に女性人事部長が就任。ダイバーシティ&インクルージョンは新たなステージへ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界最先端を走る顧客と並走 ● サプライヤーエンゲージメント <p>■ 多くの顧客が存在する米国・韓国・台湾に開発・製造拠点を展開 世界の最先端を走る顧客環境と同等の製造試作ラインを導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開発成果をいち早く製品化し、変化の激しい半導体・エレクトロニクス業界において、強固な顧客基盤と信頼関係を構築 <p>■ 様々なステークホルダーとイノベーションのエコシステムを形成 開発難易度が年々高まっている最先端半導体分野でのイノベーションに向けて、顧客以外の様々なステークホルダーとも協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 優れた技術力を有するベンチャー企業の発掘・支援や、学術関係者との共同研究、各種コンソーシアムへの参画を拡充 <p>■ 最先端の価値をサプライヤーとともに創造 サプライヤーエンゲージメントを強化・拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最先端半導体材料を原材料の組成段階からサプライヤーとともに作りこむ ● 地球環境保全へ向け化学物質のリスク管理においてもサプライヤーと密に連携 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業を通じた環境価値の創出 ● 環境リスクの最小化 <p>■ 材料、装置の双方において環境価値を創出 環境貢献製品を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先端フォトレジストの提供により、半導体の微細化を通じた消費電力低減に貢献 ● 再生エネルギーシステムや電気自動車、ハイブリッドカー等の省エネ制御を行うパワー半導体の製造に欠かせないg線・i線用フォトレジストで世界トップシェア*、連結売上高の10%弱を安定的に計上 ● パワー半導体製造用装置を複数展開し、多くの顧客よりリピート受注 <p>*2020年の見込み出荷数量ベース(富士キメラ総研「2020先端/注目半導体関連市場の現状と将来展望」)</p> <p>■ レスポンシブル・ケア活動 化学物質を取り扱い、製造工程で大量の水を用いるメーカーとして適切に管理するほか、脱炭素へ向けた温室効果ガスの削減にも注力</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 製造過程やサプライチェーンにおける環境リスクの最小化に注力 ● グローバルでグループ経営体制を強化するGMS(グループマネジメントシステム)の一環として、レスポンシブル・ケア活動*に注力 <p>*化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動(一般社団法人 日本化学工業協会が定義)</p>